



小学校、中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が急増し、10年間で約2倍になっています。在籍している子どもの様々な障害や発達段階に応じた丁寧な指導をしたくても、担任1人で、8人の子どもたちに対応するには限界があります。

また、小学1年生と6年生では、課題がかけ離れており、同じクラスで生活するには無理があります。中学校3年間は、思春期を迎え、進路の悩みもあり、体と心の変化の個人差が特に大きい時期です。1学級の上限を6人とし、小学校も中学校も学年に配慮した学級編制をすることで、一人ひとりに合わせた丁寧な指導ができます。すでに自治体独自に6人、7人の学級編制を実施しているところがあります。国が責任をもって教育条件の改善を図るべきです。

## 特別支援学級の 1クラス

# 8人を6人に。

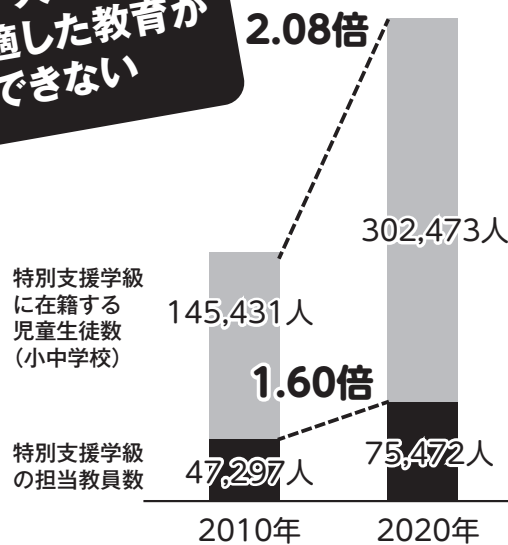
## 2学年以内で学級編制してください。

### 「全国特別支援学級・ 通級指導教室設置学校長協会」も 特別支援学級の編制標準の 引き下げを求めています

全特協として課題を挙げると、特別支援学級の編制標準を「1学級6人」に引き下げることである。全国の会員からも「子どもたちの障害が多様化し、異学年の子どもたちが同じ学級に在籍している中で、現在の1学級8人では指導に限界がある」という声が上がっている。本年度、調査等を実施して根拠を明確にした上で、特別支援学級編制標準の「1学級6人」への引き下げを文科省に働き掛けていきたい。

(日本教育新聞 2021年6月28日付 全特協会長のコメントより抜粋)

一人ひとりに  
適した教育が  
できない



## 要請署名にご協力ください